

統計委員会企画部会
第3ワーキンググループ 第3回会合

内閣府説明資料

2022年8月22日

政策統括官（経済社会システム担当）

- 我が国の経済社会の構造について、GDP等の経済指標だけではなく、満足度といった主観的な尺度を含めて、多面的に「見える化」し、政策運営に活かしていくべく検討を進めている。

○経済財政運営と改革の基本方針2017

「従来の経済統計を補完し、人々の幸福感・効用など社会の豊かさや生活の質（QOL）を表す指標群（ダッシュボード）の作成に向け検討を行い、政策立案への活用を目指す。」

○経済財政運営と改革の基本方針2018

「国民の満足度、生活の質の向上が実現されるよう、満足度・生活の質を示す指標群を構築するとともに、各分野のKPIに関連する指標を盛り込む。」

 2019年より「満足度・生活の質に関する調査」を実施

○経済財政運営と改革の基本方針2021

「政府の各種の基本計画等について、Well-beingに関するKPIを設定する。」

 2021年より「Well-beingに関する関係省庁連絡会議」を開催

満足度・生活の質に関する調査について

- 2019年に開始し、毎年2-3月に調査を実施（インターネット調査、2022年：約10,000人）。
- 総合的な生活満足度、13分野別の満足度、分野別の質問等により、主観・客観の両面からWell-beingを多角的に把握（満足度に関しては、現在の生活またはその分野について、どの程度満足しているかを0~10点で自己評価している）。

（総合的な満足度）生活満足度

13分野別満足度

- 家計と資産の満足度
- 雇用環境と賃金の満足度
- 住宅の満足度
- 仕事と生活の満足度
- 健康状態の満足度
- 自身の教育水準・教育環境の満足度
- 社会とのつながりの満足度
- 政治・行政・裁判所の満足度
- 自然環境の満足度
- 身の回りの安全の満足度
- 子育てのしやすさの満足度
- 介護のしやすさ・されやすさの満足度
- 生活の楽しさ・面白さの満足度

基本属性に関する質問（例）

- 性別 ○年齢 ○居住地 ○世帯構成 ○子供の年齢 等

13分野別の関連質問（例）

- 各分野の満足や不満に大きく影響するものについての認識
- 各分野に対する将来不安

- あなた自身の健康状態（「よい」「わるい」等の主観的な認識）
- 健康状態の将来不安
- 健康のために実践していること（バランスのとれた食事、適度な運動等）

- 子育ての感想（「楽しい」「どちらかというと楽しい」等の主観的な認識）
- 子育てを気軽にお願いできる人の有無（家族、親族、友人等）
- 育休の取得状況

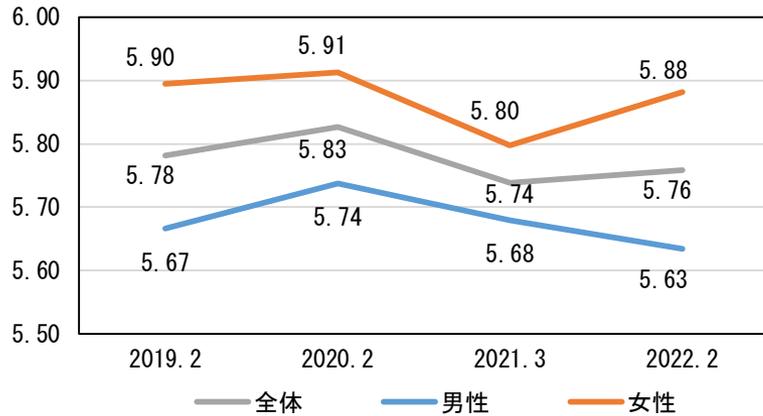
その他（例）

- 1年間で経験したこと（結婚した、失業した等）
- 最近の生活について（孤独を感じる、気分が沈み気が晴れない等）

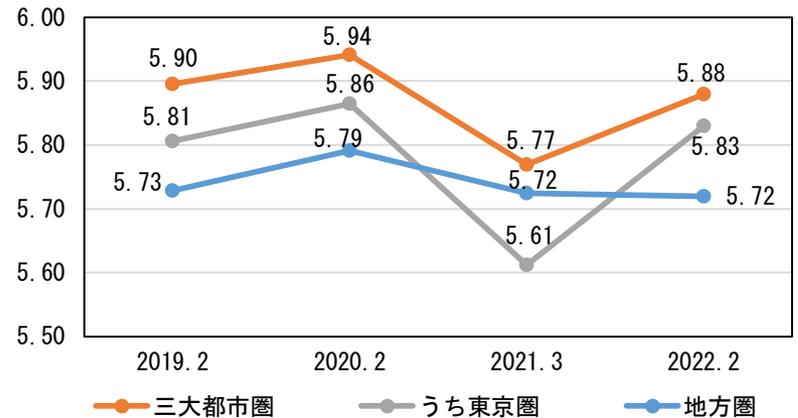
①生活満足度の動向（男女別・年齢別・地域別）

○生活満足度は、男性に比べて女性は高い水準で推移し、昨年度に比べて上昇。（図表1-1）年齢階層別では、40-64歳の層で上昇。（図表1-2）地域別では東京圏で上昇幅が大きい。（図表1-3）
 ○男女別をさらに年齢階層で分けて確認すると、男性では65歳以上の層の低下が、女性では40-64歳の層での満足度の上昇寄与が大きい。（図表1-4）

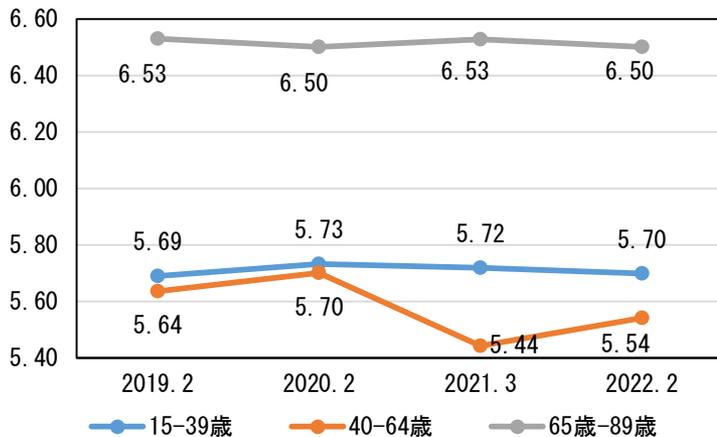
図表 1-1 生活満足度の推移（男女別）



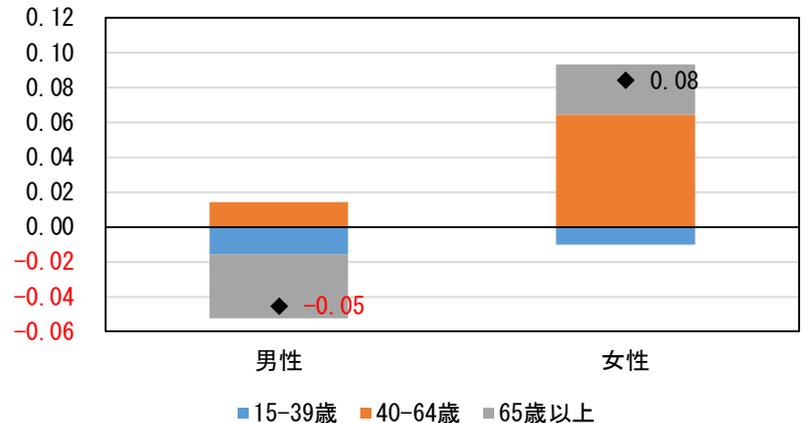
図表 1-3 生活満足度の推移（地域別）



図表 1-2 生活満足度の推移（年齢階層別）



図表 1-4 生活満足度変化の要因分解（男女別）

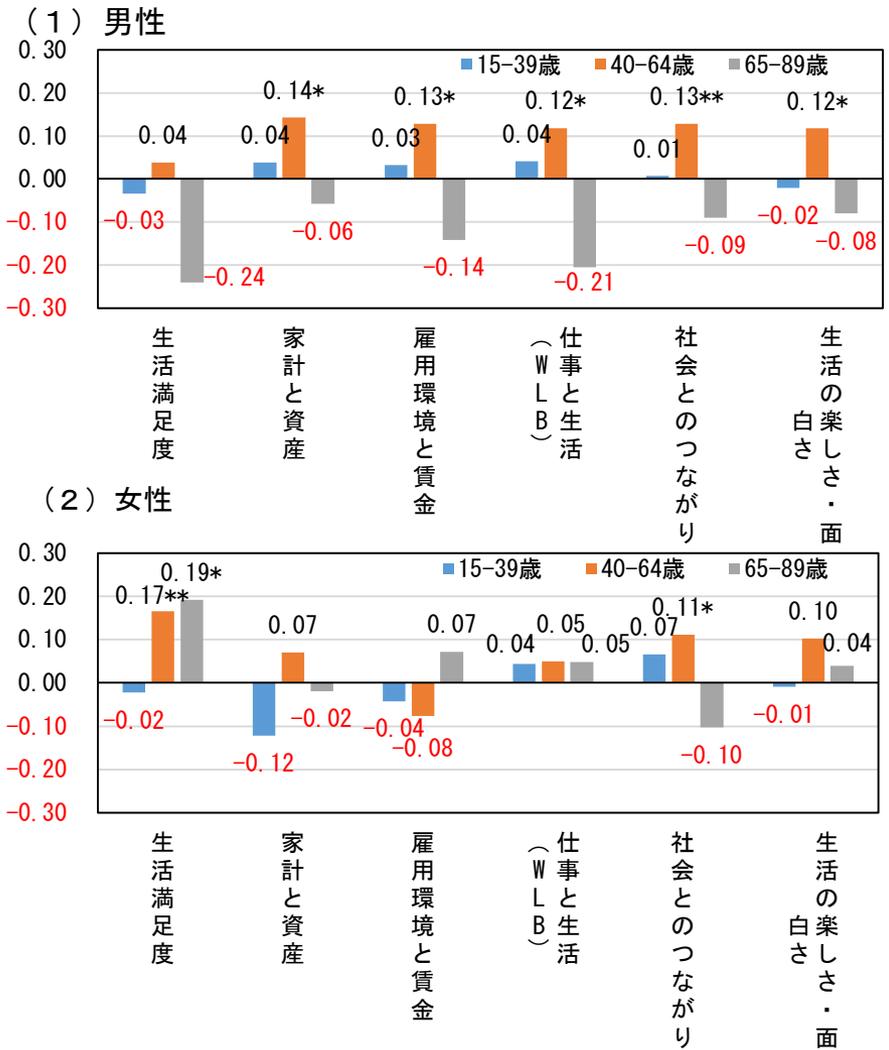


（備考）2021年3月調査と2022年2月調査の平均値による。

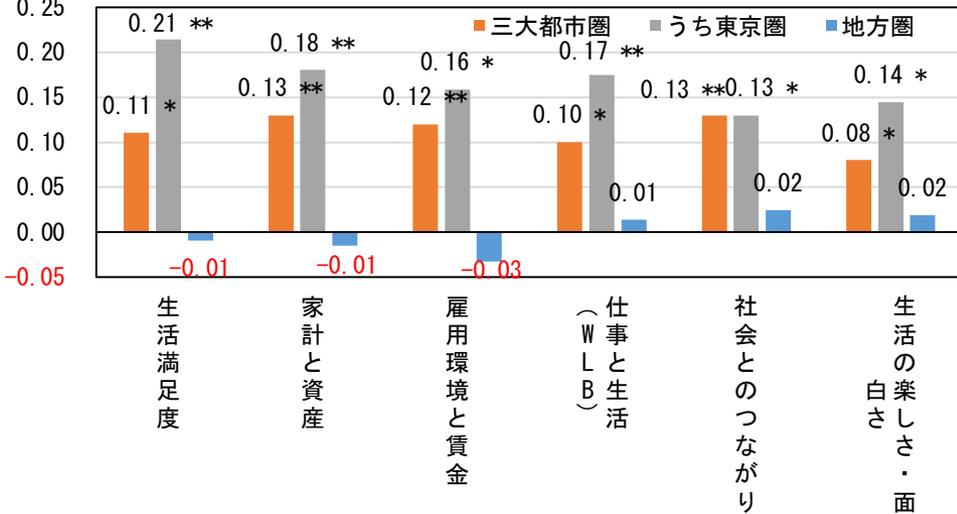
②分野別満足度の動向（男女・年齢別、地域別）、分野別満足度と生活満足度の関係

○男性の40-64歳で多くの分野別満足度が、女性の40-64歳で「社会とのつながり」満足度が上昇。（図表2-1）東京圏・三大都市圏で、多くの分野別満足度が上昇。（図表2-2）
 ○分野別満足度と生活満足度の関係をみると、「生活の楽しさ・面白さ」、「家計と資産」、「WLB」満足度の影響が大きい。（図表2-3）

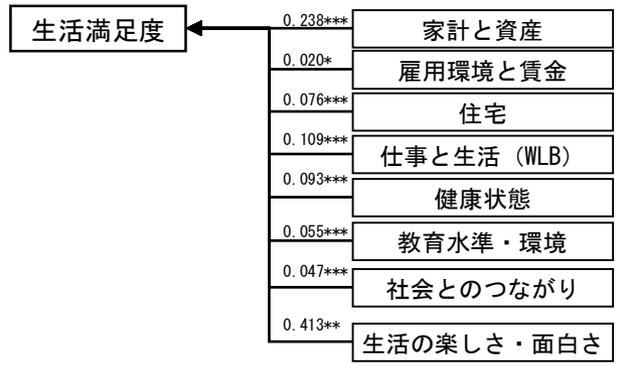
図表2-1 分野別満足度の変化（男女・年齢階層別）



図表2-2 分野別満足度の変化（地域別）



図表2-3 分野別満足度と生活満足度の関係

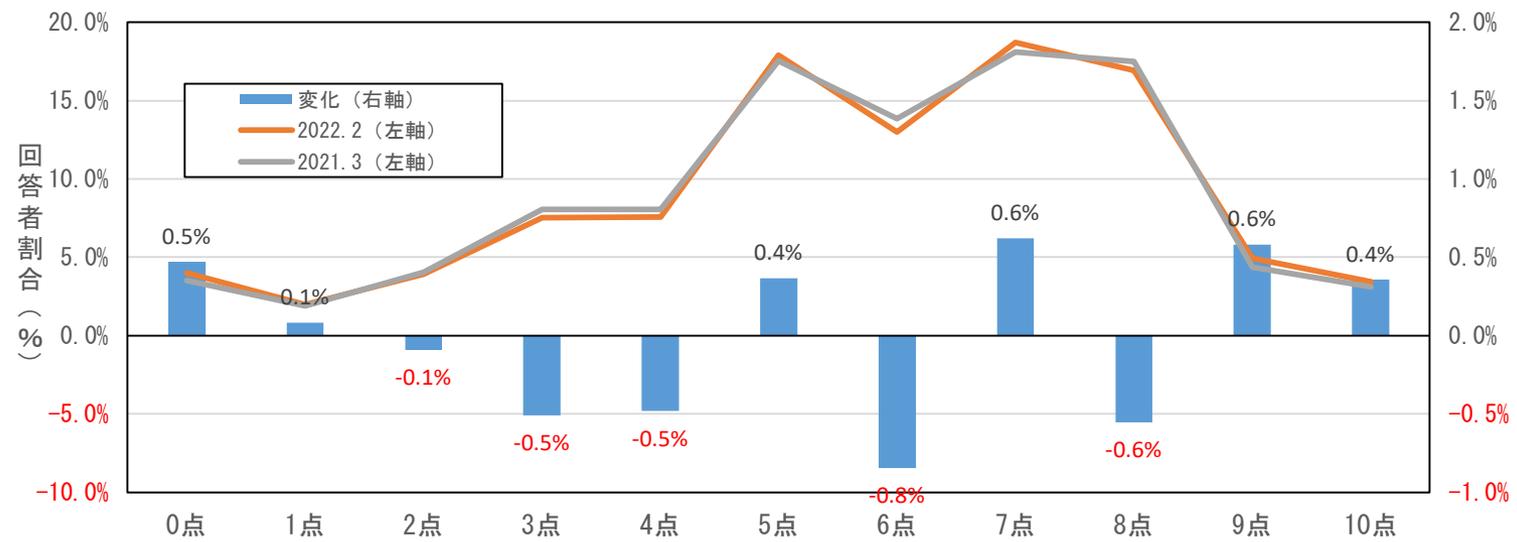


(備考) 2021年3月調査と2022年2月調査による。***, **, *はそれぞれ1%、5%、10%水準で統計上有意であることを示す。図表2-3について、政治・行政・裁判所の信頼性、自然環境、身の回りの安全、子育てのしやすさ、介護のされやすさは直接的な効果としては有意な係数が得られなかったため、記載省略。

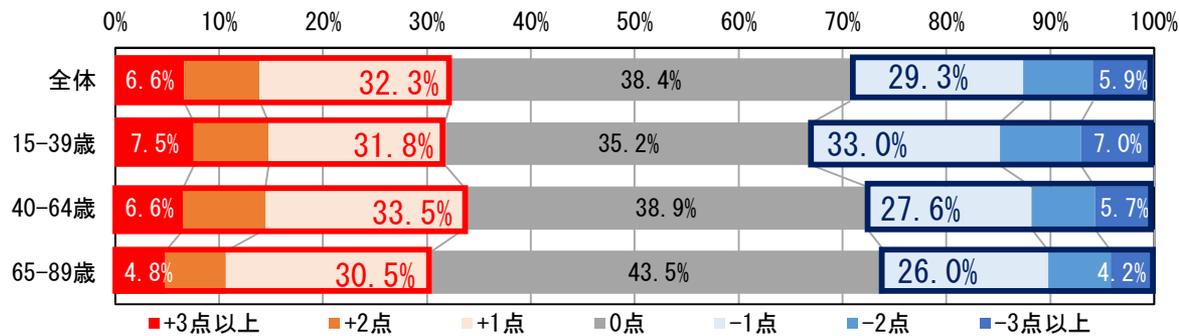
③生活満足度の分布

○生活満足度の分布形状は大きく変わらず、7点が一番多い。満足度が高い人(7以上)の割合がやや大きくなった。(図表3-1)
 ○3割近く(29.3%)の人の生活満足度が低下したが、上昇した人の割合(32.3%)の方が大きい。(図表3-2)

図表3-1 生活満足度(点数)別の回答者割合



図表3-2 生活満足度の変化別の回答者割合(※)

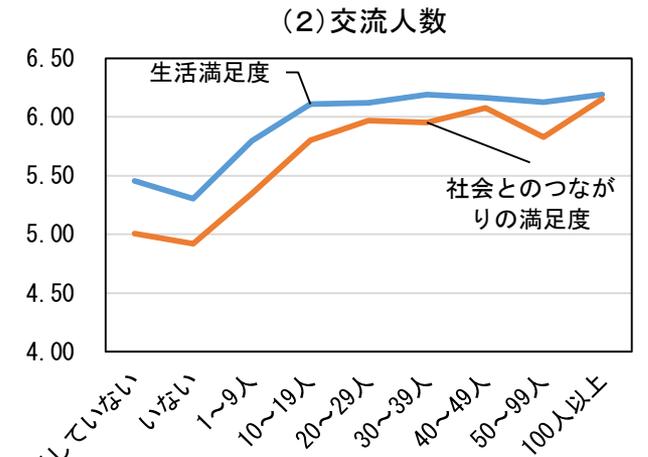
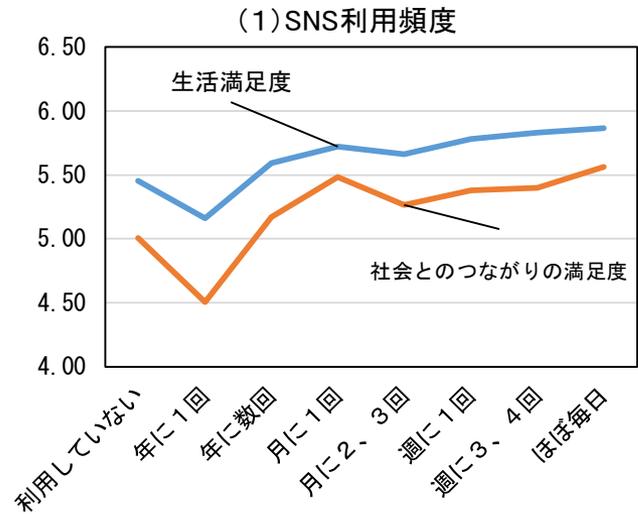


(備考) 図表3-1は、2021年3月調査、2022年2月調査のサンプル(それぞれ約5000、10000)分布の比較、図表3-2は、2021年3月調査、2022年2月調査ともに回答したサンプル(3300人)

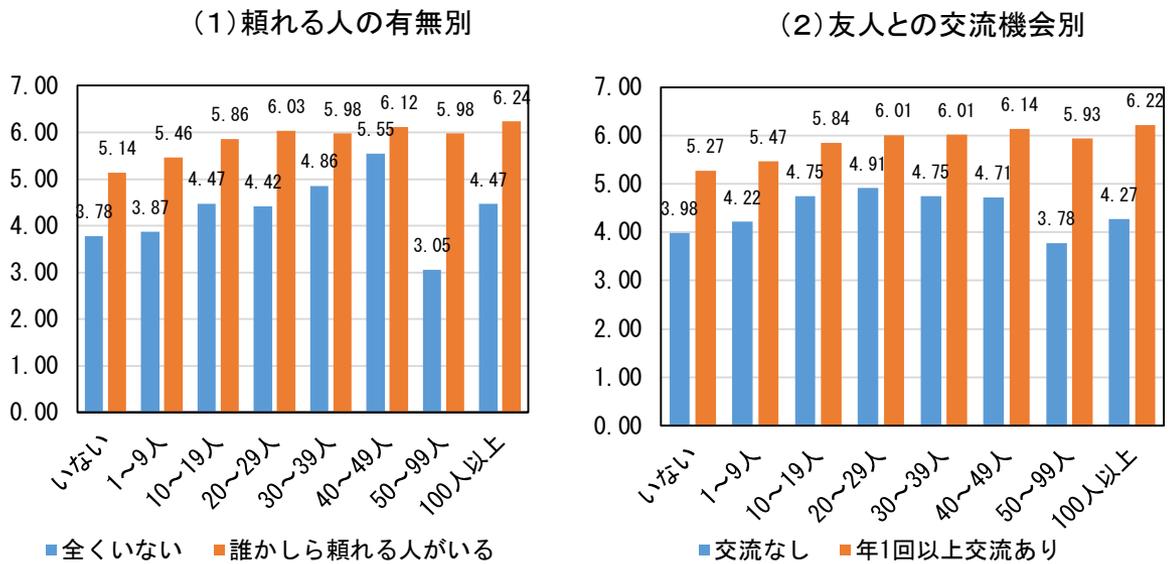
④ デジタル化と交流の変化

○ SNSの利用頻度、交流人数が多くなっても満足度は比例的には高まらず(図表4-1)、実際に頼れる人がいない、友人との直接の交流がない場合に「社会とのつながり」満足度は低い。(図表4-2)
 ○ 様々なリスクを感じる割合は女性の方が男性より大きく、女性では、ネットリスクを感じる割合は感染症を不安に感じる割合の次に大きい。(図表4-3)

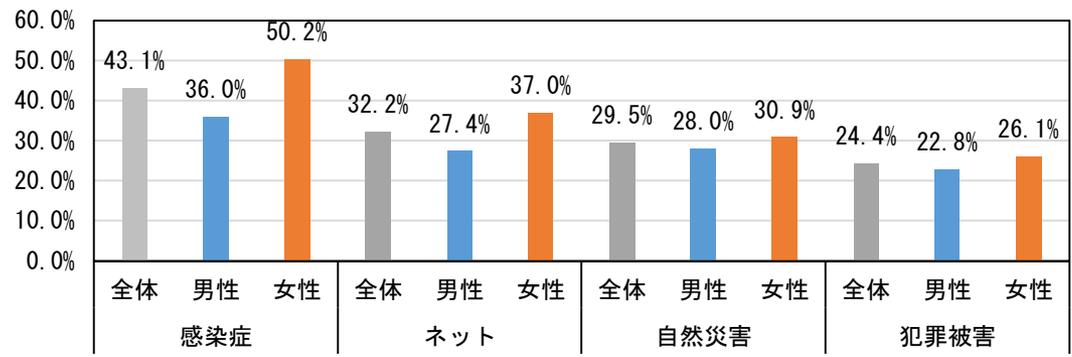
図表4-1 SNSの利用頻度・交流人数と満足度



図表4-2 SNS上の交流人数と社会とのつながり満足度



図表4-3 様々なリスクを不安に感じる割合

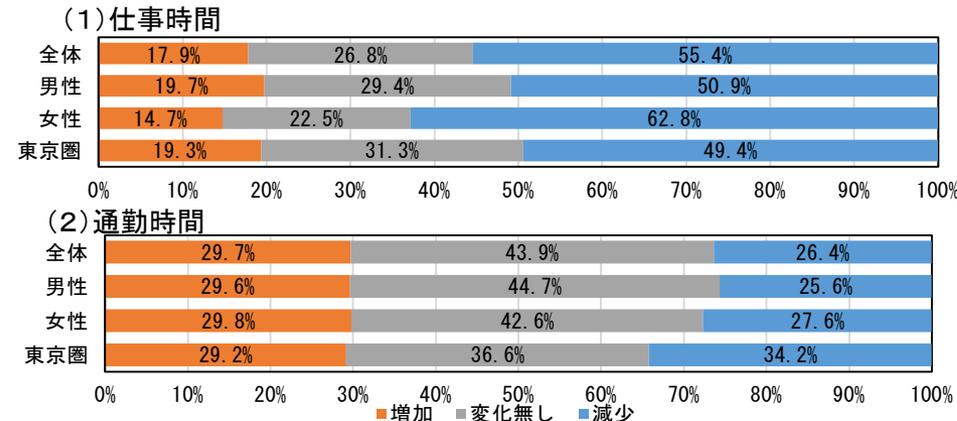


(備考) 2022年2月調査による。図表4-3の「ネット」については、「身の周りの安全」に関する現在の満足や不満に大きく影響しているものとして、「個人情報の漏洩・流出、フィッシング詐欺などインターネットを取り巻く環境に関するリスク」を掲げている割合。

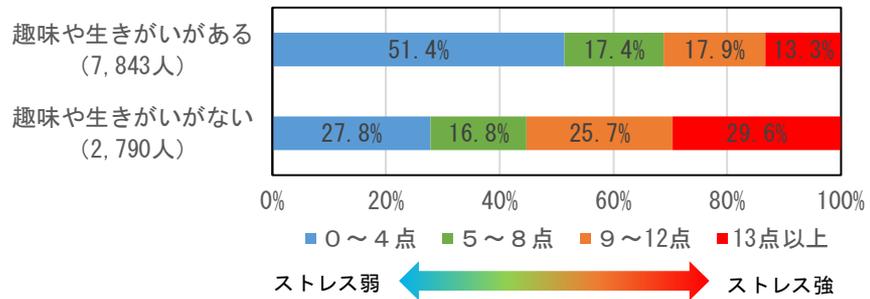
⑤働き方の変化とWLB、心の健康

○コロナ禍前と比べて、仕事時間が減少した割合は増加した割合を上回る。東京圏では通勤時間が減少した割合が大きく(図表5-1)、男性で仕事時間が減少した人は「健康状態」や「WLB」満足度が上昇。(図表5-2)
 ○趣味や生きがいがある人では精神的なストレスを受けない割合が高く(図表5-3) ストレスを受けていない人は生活満足度が高く、ストレスを強く受けている人は、生活満足度が低い傾向にある(図表5-4)。

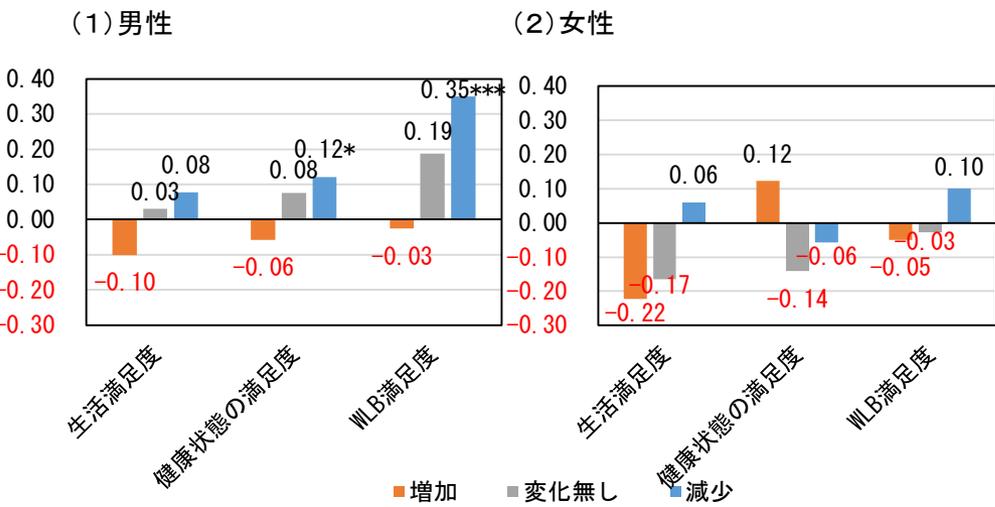
図表5-1 仕事時間・通勤時間変化(コロナ禍前との比較)



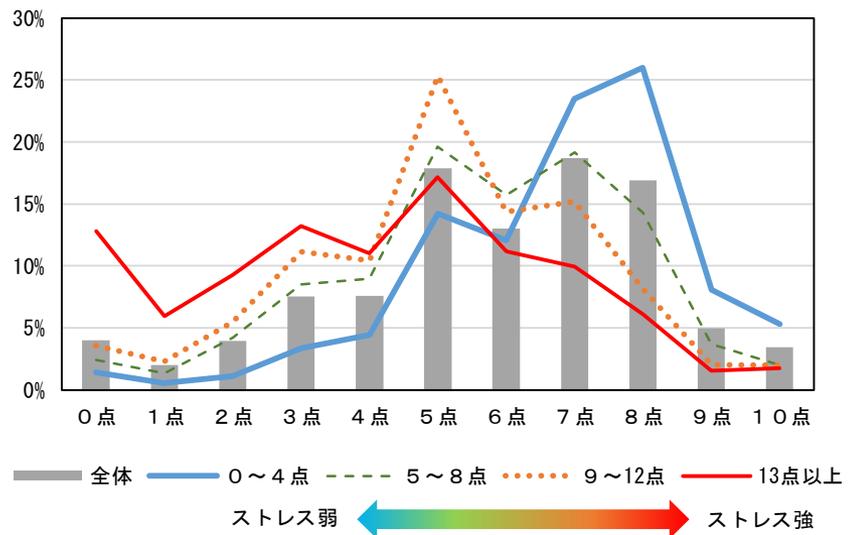
図表5-3 生きがいとK6(心の健康状態)の分布



図表5-2 仕事時間変化と満足度



図表5-4 K6(心の健康状態)と生活満足度の分布

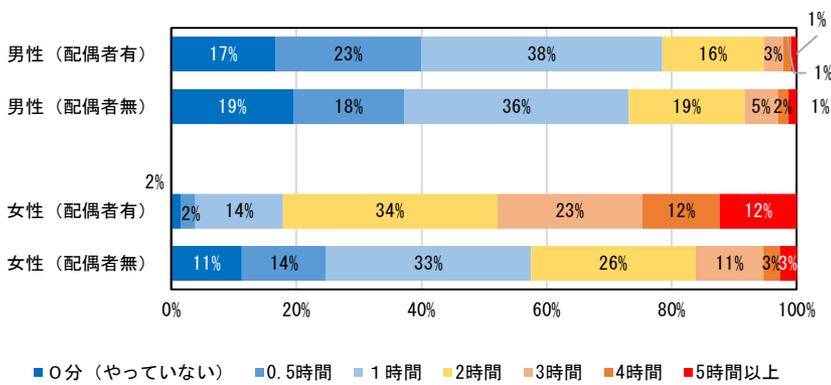


(備考) 図表5-1、2は、2019年2月調査(第1回調査)と2022年2月調査に回答したサンプルのうちの就業者(約2500人)。***、*は、それぞれ統計的に1%、10%水準で有意であることを示す。図表5-3、4は2022年2月調査サンプル。K6とは、精神疾患リスクを計測するために開発された心の健康状態を測る指標のひとつ。6つの項目を5段階で点数化し、合計点数が高いほど精神的ストレスが強く、心の健康が損なわれている可能性が示唆される。

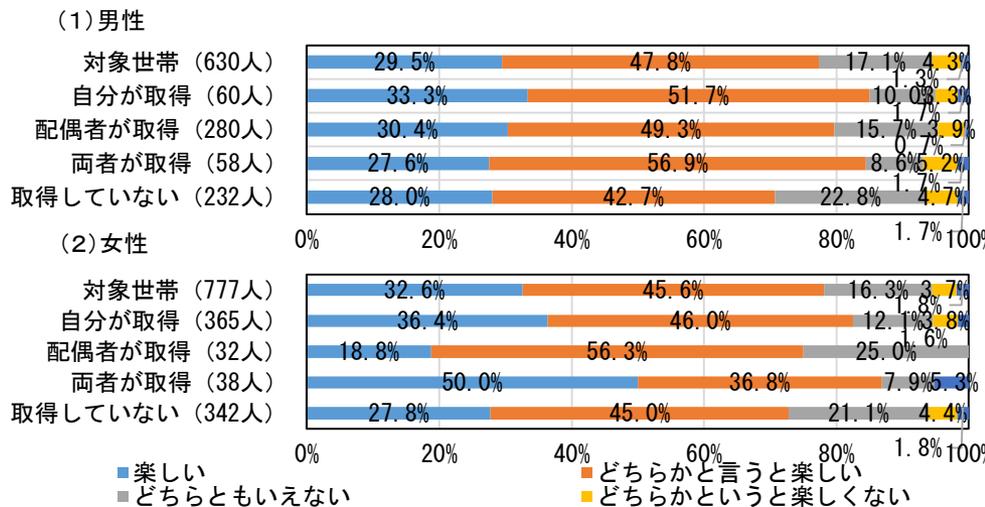
⑥家事・育児と満足度

○女性で配偶者がいる場合、家事時間が長い人の割合が大きい。(図表6-1)
 ○家事時間が長くなるにつれ、正規雇用者の「WLB」満足度は低下。(図表6-2)
 ○夫婦ともに育児休業を取得した場合、特に女性で楽しさを感じる割合は高く、「WLB」満足度も高い。(図表6-3、4)

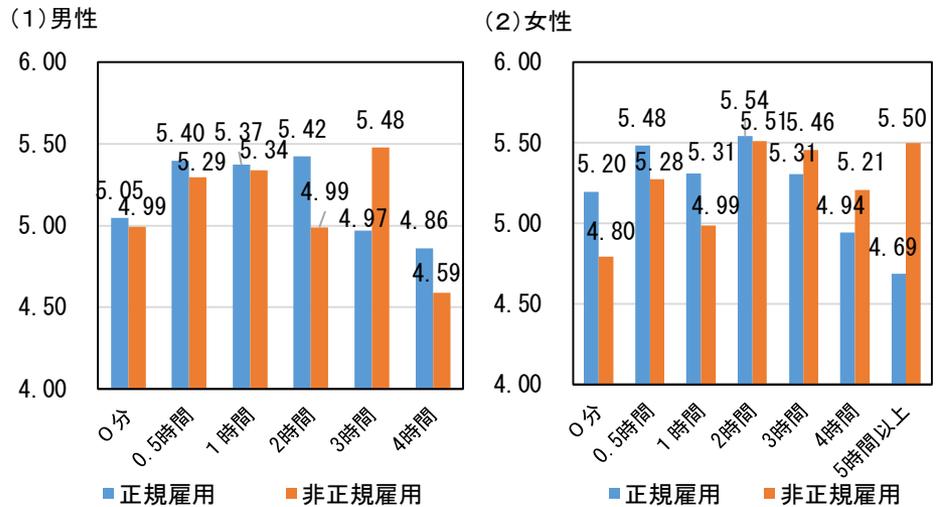
図表6-1 男女別・配偶者の有無別家事時間



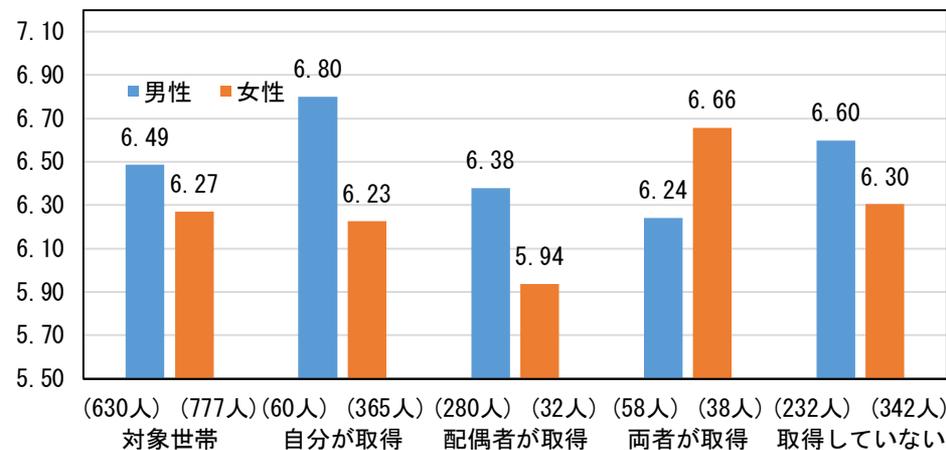
図表6-3 育休取得と子育ての楽しさ



図表6-2 雇用形態別家事時間とWLB満足度



図表6-4 育休取得とWLB満足度

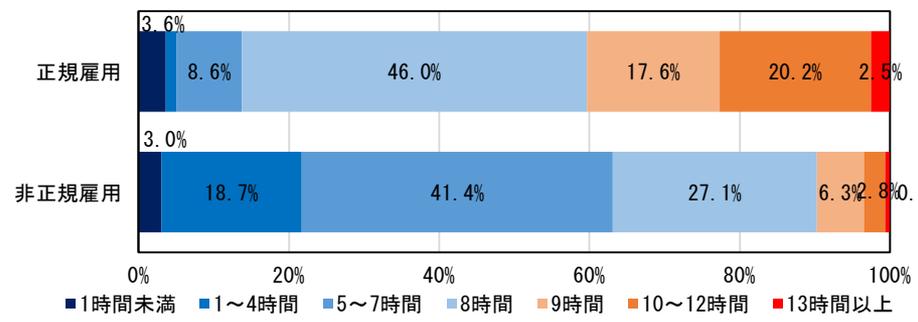


(備考) 図表6-1~4は、2022年2月調査サンプル。図表6-2について、男性で5時間以上家事をするサンプルは少なかったため除く。
 図表6-3、4の対象世帯とは、未就学児がいる世帯。

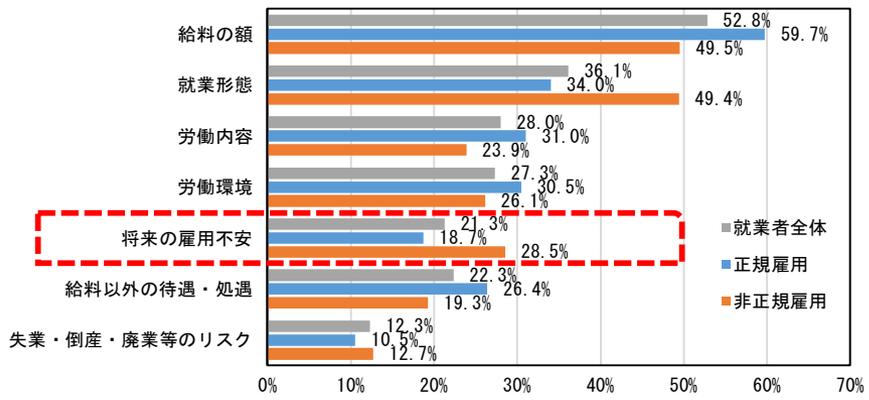
⑦雇用不安と所得環境

- 正規雇用者は非正規雇用者と比べて労働時間が長い人の割合が大きい。(図表7-1)
- 雇用形態に関わらず、労働時間が長いほど雇用・賃金満足度が低下。(図表7-2)
- 将来の雇用不安は非正規雇用者の方が高い。(図表7-3)
- 「雇用賃金」満足度の分布は、製造業で変化はないが、教育学習支援業で低い点数にシフト。(図表7-4)

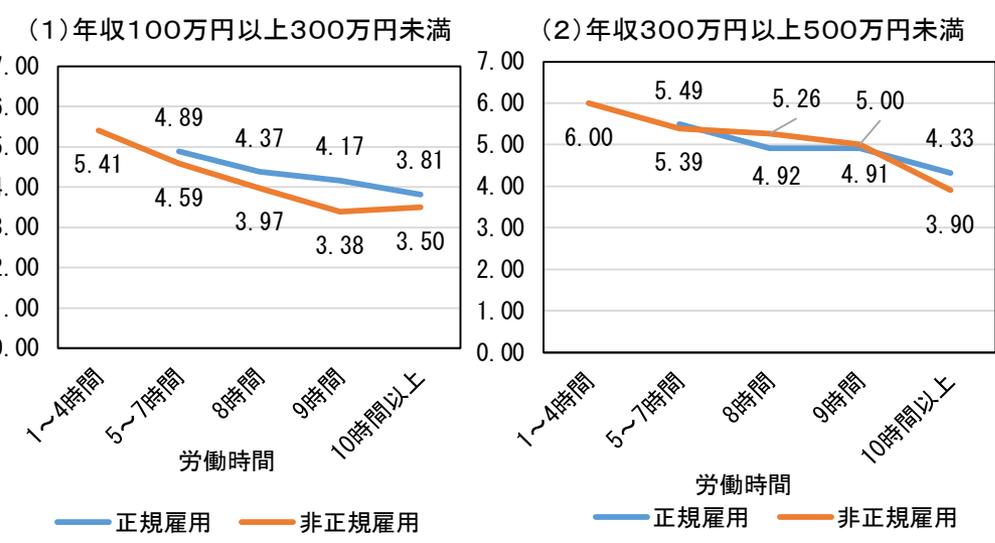
図表7-1 雇用形態と労働時間



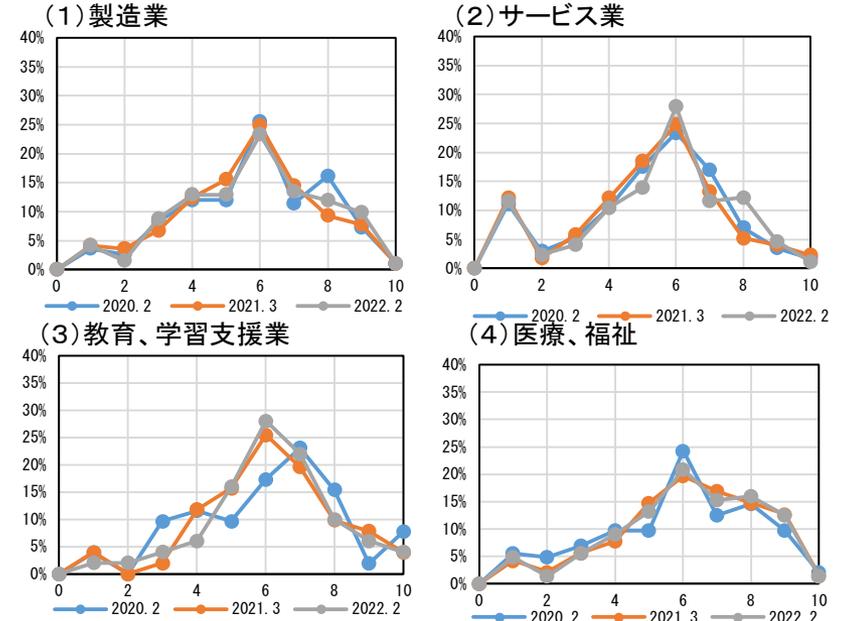
図表7-3 雇用形態と不安



図表7-2 所得水準・労働時間と雇用・賃金満足度



図表7-4 産業と雇用・賃金満足度(点数)別の回答者割合



(備考) 2022年2月調査サンプル。
図表7-2について、サンプルが少ないため、正規雇用の1~4時間勤務者は除く。

参考2 満足度・生活の質を表す指標群 (Well-beingダッシュボード)

○ 我が国の経済社会の構造を人々の満足度 (Well-being) の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくことを目的として、「満足度・生活の質を表す指標群 (Well-beingダッシュボード)」を構築。



※分野別満足度の11分野の選定に際しては、OECDの「より良い暮らし指標」の分野をベースに、総合満足度と分野別満足度の関係を統計的に分析した上で設定
 ※客観指標群は、分野別満足度との統計的な関係を分析した上で設定

参考3 Well-beingに関する関係省庁連絡会議について

- 関係府省庁が連携してWell-beingに関する取組を推進するため、Well-beingに関する関係府省庁連絡会議を2021年7月より開催（参加省庁：内閣官房、内閣府、消費者庁、デジタル庁、総務省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）。今年6月21日に第2回となる連絡会議を実施。第1回と同様に関連するKPI、取組・予算についてとりまとめることとした。
- 以下のような観点から、関係府省庁におけるWell-beingに関する取組について情報共有を行い、関係府省庁間の連携を強化するとともに、優良事例の横展開をはかる。
 - ・ 各種基本計画等におけるWell-beingに関するKPIの設定
 - ・ Well-beingに関する統計・調査、研究・分析、実証事業の推進
 - ・ その他Well-beingに関する取組の推進

➤ 関係府省庁におけるWell-being関連の基本計画等のKPI、取組・予算について取りまとめ（以下は昨年度取りまとめ資料より抜粋）

2-1 Well-being関連の統計・調査の例

(1) 調査規模の大きな調査の例

調査名	調査人数	R4概算予算要求額	Well-beingに関する質問項目の例
全国学力・学習状況調査	約200万人 (全国の小6、中3)	45.9億円 (R3: 34.6億円)	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	約200万人 (全国の小5、中2)	2.4億円 (R3: 2.4億円)	運動・スポーツの大切さ、嗜好性、達成感・挑戦心、自己肯定感等
国民生活基礎調査	約70万人	7.8億円 (R1: 6.2億円)	健康上の問題の日常生活への影響 現在の健康状態の自己認識

(2) 令和4年度に見直しを検討している調査の例

【内閣府】 子供・若者のWell-beingに係る調査の統合・新設 (R4: 0.7億円、過年度: 0.3億円)

【調査の統合】 ①子供・若者の意識調査（自己肯定感、居場所と感ずる場所等を調査）と、②ひきこもりに関する調査を統合。主観・客観（行動）の両面から、Well-beingの課題等を多面的に分析できるよう改善。

【調査の新設】 子供・若者を取り巻く状況の変化を踏まえたテーマを毎年度設定し、タイムリーに調査。Well-beingの観点も踏まえた調査設計とするよう検討。

【経産省】 企業のWell-beingに関する調査項目の充実 (R4: 9億円の内数、R3: 7億円の内数)

健康経営度調査（R2は2500社程度が回答）において、主観的Well-beingに関連する

- ・ アブセンテイズム（心身の体調不良により仕事を休業している状態）
- ・ ワーク・エンゲイジメント（従業員の仕事への「熱意・没頭・活力」の3点が満たされている心理状態）

等についての企業の取組状況に関する調査項目をより充実させるとともに、主観的Well-beingと企業経営の関係进行分析する。